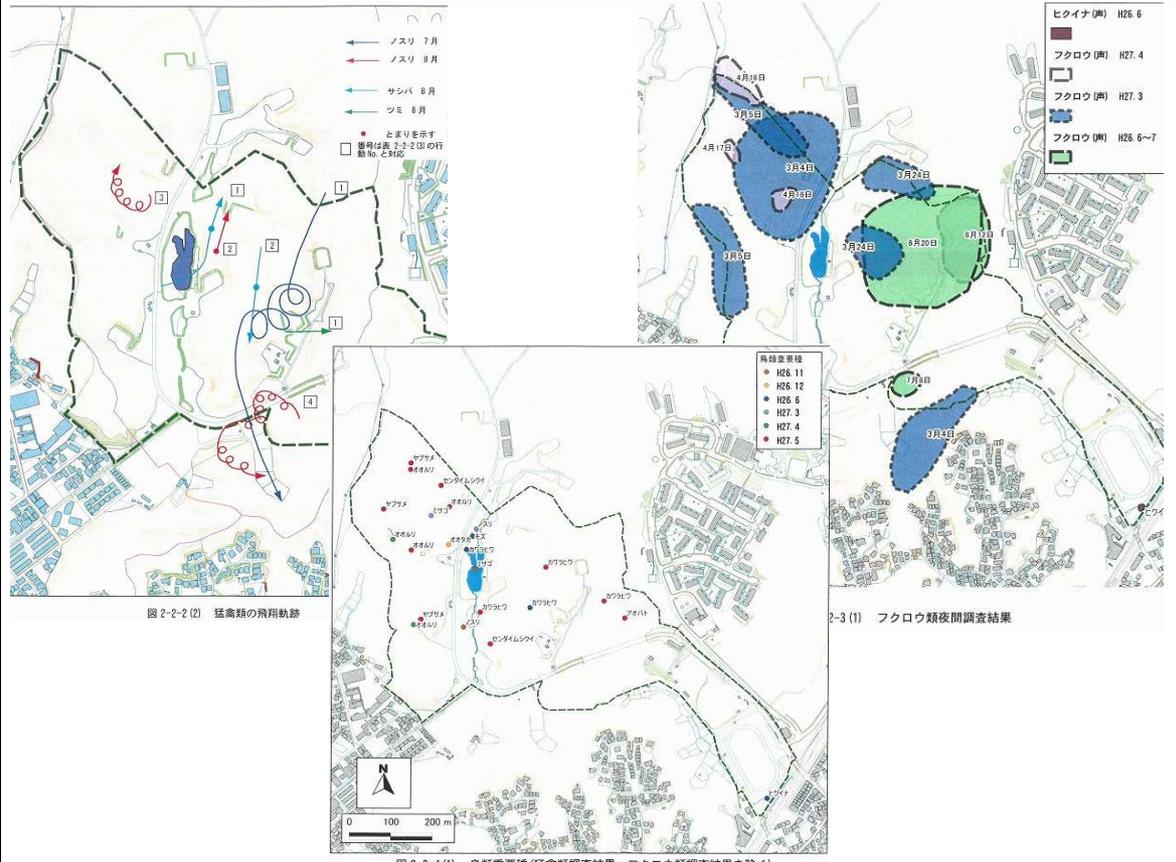


## 5 森林性鳥類の生息地

場所・範囲



### ■作業スケジュール

作業	頻度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
裾刈り、草刈	定期的に	■									■			
調査	通年	■												
フクロウの巣箱設置	1回							■						

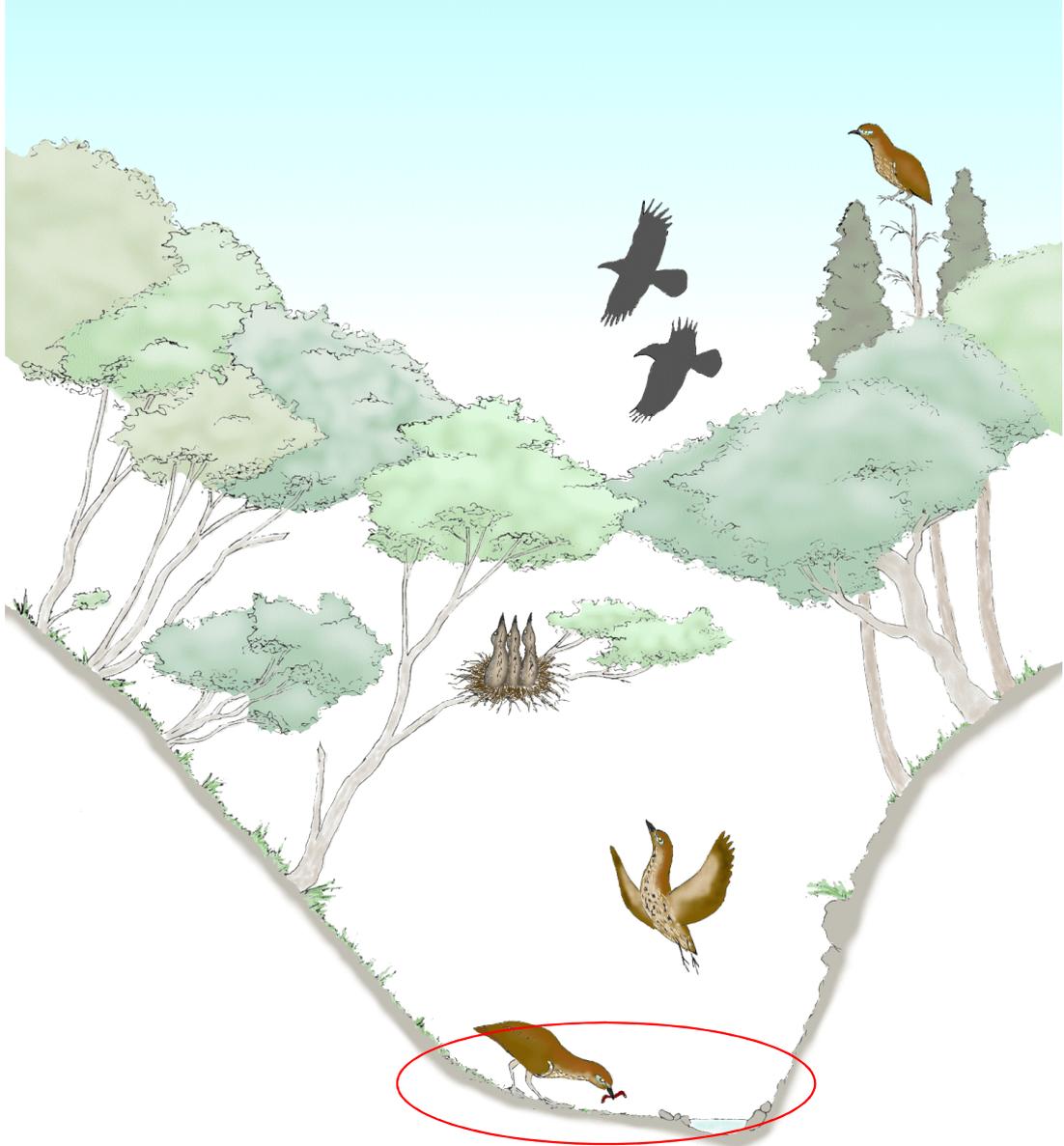
### 保全管理

自然環境の特徴

オオルリやセンダイムシクイ等まとまった規模の森林に生息する夏鳥が確認されている。  
 サシバが散見されているが、現状では谷戸の湿地が乏しく、シュレーゲルアオガエル等を捕食できないため、越夏はしていないと思われる。  
 オオタカは米軍住宅地がメインの生息地と思われる。  
 カシカダカ、シメ、イカル、ルリビタキ等、落葉樹の実や新芽を食べる冬の小鳥が豊富に見られる。  
 マダケ群落、マント群落、ソデ群落の拡大により、鳥類の利用エリアが狭められる恐れがある。  
 ナラ枯れ病の拡大により森林が減少する恐れがある。  
 食物連鎖の上位に位置するフクロウも確認されているが、営巣していた木が2020年に倒れてしまった。  
 ミゾゴイは緑地エリア内で繁殖していると思われる。

### 利用・管理状況

バードウォッチング、探鳥会が盛んに行われている

<p>保全の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状で確認されている鳥類が継続して確認されること。</li> <li>・ミゾゴイの営巣地を保全する。ミゾゴイの営巣期間（4月～8月）は谷戸の立入を禁止する。</li> <li>・フクロウの営巣地確保のため、巣箱を設置する。（10～12月）</li> <li>・オオタカの生息地保全は米軍と緊密に連携し、緑地エリアに入り込んだ場合は配慮する。</li> </ul>
<p>管理の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミゾゴイの営巣期間（4月～8月）は谷戸の立入を禁止するが、草刈りは定期的に行われ、人が立ち入れない芝生広場を営巣地の至近に広く確保する。</li> <li>・フクロウの営巣木が失われたため、補完として巣箱を令和4年12月に設置する。以降は、毎年繁殖期前に巣材を補充する程度の管理とする。巣箱にはカメラを設置し、育雛状況を遠隔で観察できるように工夫する。</li> <li>・野鳥の採食範囲を狭める恐れのあるマダケ群落、マント群落を無秩序に拡大させない。</li> <li>・森林のあり方については、項目7を参照。</li> </ul>
<p>その他</p>	 <p>巣から150m以内で人が立ち入らない谷戸の谷底面を一部芝生状に維持すると採食場出来る</p>